

2018年度 日本語教育実習 輔仁大学 海外短期研修参加レポート

日本語日本文学科 4年生

今回の海外日本語教育実習は、言語習得において会話をするということがいかに学習者に大きな影響を与えるかについて深く考えるきっかけになった。私が実習を行った輔仁大学の日本語学習者たちは日本のアニメやドラマ、そして文化が好きだという学習者が多かったため、日常で日本語に触れる機会はあるし学校でも日本語学科の生徒として日本語を学んでいるけれど、実際に日本人と日本語で話すという経験はないという生徒がほとんどであった。そのため、私が日本語で話しかけると「私日本語が上手ではないから…」と会話をするのを躊躇したり、言いたいことがあるけど日本語で何と云えばいいのかわからないので会話することをためらう学習者がいたりした。しかし、初めはそう言っていた学習者たちも時間が経つにつれてどんどん自分から話しかけてきて、自分の伝えたいことをどうにかして伝えようとするなど会話に積極的になった。日本人と話すことで学習者の日本語で伝えたい、会話がしたいというモチベーションをあげることに繋がったのではないかと考えられる。

午前授は業で午後は自由時間だったということもあり、授業終わりに一緒に昼食を食べに行ったり、買い物に行ったりと授業外で学習者たちと過ごす時間が多かった。このためその点とに気づくことができた。また、文法ができるからと言っても会話ができるとは限らないというのが言語学習の難しい点であるなど感じた。日本で日本語を教える、海外で日本語を教える、それぞれの環境の違いにより授業展開の仕方が全く異なるということも実際に海外で実習をしたことで知り、興味を持ったので今後自身の研究の課題にしたいと考えている。